



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 112) uniwish39号 (2022年4月)
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
 (電話・FAX) 0952-28-2077
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
 facebook <http://www.facebook.com/unicef>



差し迫った脅威にさらされつづける ウクライナの**750万人**の子どもたち



ウクライナ緊急募金

<ウクライナの子ども達の状況>

2022年2月24日に始まった、ウクライナの紛争は本格的な戦争に発展しました。3月29日までに250万人の子どもを含む650万人が国内避難民となり、112人の子どもが死亡、149人が負傷しました。また400万人以上の難民がウクライナから脱出(230万人以上がポーランドに、60万9,000人近くがルーマニアに、38万7,000人以上がモルドバに、36万5,000人近くがハンガリーに、64万2,000人以上がその他の国々に流入)しました。ユニセフは24時間体制で支援を続けています。

★ 地下鉄で避難生活を送る子どもと家族 ユニセフ、子どもたちのための空間を設置

【2022年3月31日ハルキウ(ウクライナ)発】

<子どもたちと家族のための空間 ブルードット>

ユニセフは、ウクライナの子どもたちと家族の安全を守るための「ブルードット」という支援拠点を、ウクライナと国境を接する周辺国の26カ所への設置をすすめています。



© UNICEF/UN0622178/Holerga
 ユニセフによる支援拠点ブルードットで遊ぶ5歳のエマちゃん。子どもと女性の緊急ニーズに対応している。(ウクライナ、2022年4月7日撮影)

<教育も日常も奪われる子どもたち>

「29ある地下鉄の駅では、赤ちゃんから15歳の子どもまで、約1,500人が暮らしています。子どものための遊び場や空間を設置し、文房具やおもちゃを手に入れるための資金を提供したり、ボランティアの活動を支援してくれたりしたのはユニセフでした」と語るのは、ハルキウの地下鉄の駅にある避難所で、子どもたちのための空間の運営に携わり、子どもたちのためにさまざまなアクティビティを提供しているマリーナ・レディジェンスカさん(48歳)です。



© KhrystynaPashkina
 ユニセフ支援の学用品を使って学習する子どもたち。(ウクライナ2022年3月25日撮影)

<ウクライナの子ども達の命を守るために 皆様のご支援をお願いします。>



© UNICEF/UN0613965/Vincent Tremeau
 ウクライナと国境を接するモルドバのパランカで列をなすウクライナ難民。(モルドバ、2022年3月24日撮影)

【2022年4月14日ニューヨーク発】

ウクライナにおける戦争は、子どもたちと家族に短期的にも長期的にも甚大な影響を及ぼしています。ウクライナ国内では現在、710万人が国内避難民となり、そのうち最大280万人が子どもたちです。病院、給水施設、学校、幼稚園も破壊され、水や衛生、教育、保健・医療などあらゆる社会サービスが絶たれています。また、周辺国へ逃れた450万人以上の難民の90%が女性と子どもであり、保護と支援を必要としています。

終息が見えず、子どもたちへの長期的な影響が懸念される中、ユニセフ(国連児童基金)は、中長期的な視野に立った新たな支援計画を発表し、必要資金としておよそ9億4,900万米ドル(約1,186億円)の支援を国際社会に求めています。(1米ドル=125円で計算)



17 パートナリシップで
目標を達成しよう



様々な国で つづく紛争
新型コロナウイルス禍(パンデミック)
はしか等のワクチン接種の中断
武力紛争などによる食糧不足

世界の子ども達を
脅かす命の危機!
求められる世界の連携

★「持続可能な開発目標」(SDGs)

“困難な時期、子どもたちのために世界の連携を” ユニセフ事務局長スピーチ(抜粋)

【2022年4月13日ニューヨーク発】……<2022年第1回「子どもとSDGs関心国グループ会合において」>

*約7年前、世界が一致して「持続可能な開発目標」(SDGs)を承認し、すべての目標において子どもたちのための前進を促進するために、「子どもとSDGs関心国グループ」が立ち上げられました。しかし、目標期限までの中間地点が近づく中、紛争の増加、気候危機、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックという諸問題が、私たちの進歩を妨げていることに気づかされます。

COVID-19のパンデミックが始まって、2年以上が経ちました。世界の協力、連携、調整により、COVAXは144カ国に13億9,000万回分以上のワクチンを届けることができました。しかしパンデミックからの回復は、終わりには程遠い状況です。ワクチンを一度も接種していない人は、まだ何百万人もいます。パンデミックにより、1億人以上の子どもたちが新たに貧困状態に陥ったと推定されており、この人数は、2019年から10%増加しています。貧困が拡大したことで、今年末までにさらに900万人の子どもが、児童労働に従事させられる可能性があります。

最後になりますが、紛争の影響を受けている子どもの人道支援ニーズが、日に日に高まっています。世界では、4億2,600万人以上の子どもが紛争地域で暮らしており、この数字は、ユニセフの75年の歴史の中で最多です。

この2年間は非常に厳しいものでした。しかし同時に、世界に協力、連携、協調をもたらしました。私たちは、この勢いを利用して、すべての子どもたちのために前進し、子どもとすべての人のために、SDGsの達成を支援しなければなりません。

★ユニセフ・WHOが警鐘

世界のはしか症例数が急増傾向 ウクライナ等での予防接種中断に懸念

<ワクチン未接種により高まる感染症急増のリスク>

【2022年4月27日ニューヨーク/ジュネーブ発】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックに起因する混乱や、ワクチン供給における不平等の拡大に加え、定期予防接種からのリソースの転用も起きており、極めて多くの子どもが、はしかやその他の予防可能な病気から身を守れない状態にあります。

各国のコミュニティにおいて、パンデミックのピーク期に実施されていたソーシャル・ディスタンスやその他の予防措置が緩和されたことにより、感染症急増のリスクが高まっています。

さらに、ウクライナ、エチオピア、ソマリア、アフガニスタンなどにおける紛争や危機により、何百万人もの人々が避難を強いられており、定期予防接種とCOVID-19ワクチンの接種は中断され、安全な水は不足し、衛生状態は悪化し、密集した空間で過ごすことが増え、ワクチンで予防可能な感染症の拡大リスクが高まっています。

★中東・北アフリカ

子どもたちの栄養危機が深刻化

食料輸入に頼る国々にウクライナ紛争が打撃

【2022年4月7日アンマン(ヨルダン)発】

ウクライナで紛争が激化して6週間、中東・北アフリカ地域の子どもたちの栄養状態の悪化が懸念されています。ウクライナで激化した紛争は、2年にわたるCOVID-19による影響と相まって、食料の90%以上を輸入している中東・北アフリカ地域の経済、雇用を圧迫し、貧困問題を悪化させています。

イエメンでは、子どもの45%が発育阻害(慢性的な栄養不良により、年齢に対して身長が低く、身体的、認知的発達が阻害される)、86%以上が貧血となっています。

スーダンでは、子どもの6%が消耗症(急激に体重が減少するなど、命の危険にさらされることもある重度の栄養不良)、36.4%が発育阻害となっており、約半数が貧血に苦しんでいます。

レバノンでは、幼い子どもの94%が必要な食事をとれておらず、女性と5歳未満の子どものうち40%以上が貧血となっています。

シリアでは、幼い子どもの75%が健康に成長するのに必要な食事をとれていません。平均的な食料品の価格は、2021年だけで約2倍になりました。

ユニセフはパートナーと連携して、栄養不良の早期発見に取り組みつつ、重度の消耗症に苦しむ子どもに命を守る治療を提供しています。同時に、パートナーとともに予防的栄養サービスを提供しています。このサービスには、微量栄養素の提供、成長モニタリング、母乳育児や年齢に応じた栄養補助に関するカウンセリングや支援などが含まれています。



© UNICEF/UN0414894/Naftalin
ユニセフが支援する栄養保健センター
ではしかの予防接種を受ける赤ちゃん。
(ソマリア、2021年2月撮影)



© UNICEF/UN0582361/
栄養不良で父親とともにハッジヤ州の
保健センターを訪れたイーマーンちゃん。
(イエメン、2021年11月撮影)



© UNICEF/UN0573763/Rich
南スーダンの病院で栄養不良の治療
を受ける1歳半のニャジャルちゃん。
(2021年11月撮影)



2021年度日本ユニセフ協会の収支概要をご報告いたします。

2021年度に日本の皆様からお預かりした募金の総額は237億円にのびりました。お預かりしたユニセフ募金の83%はユニセフ本部に拠出し、ユニセフが世界150以上の国と地域で展開する子どもたちのための支援に活用されます。また17%は、ユニセフ本部との協力協定に基づき、ユニセフの活動を支えるために日本ユニセフ協会が国内で行う、募金・広報・アドボカシー活動などに充てられました。

日頃より、世界の子どもたちのための活動を支えてくださる皆様に、心よりお礼申し上げます。

1.収支(公益目的事業会計)解説

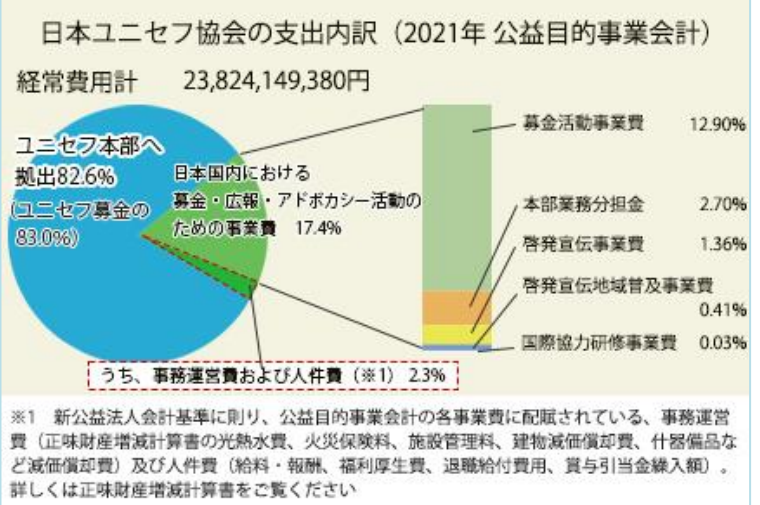
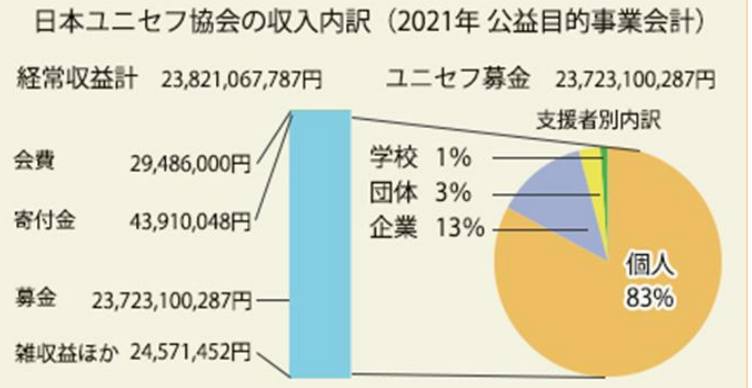
*収入の部

2021年度、みなさまのあたたかいご支援により、日本ユニセフ協会にお寄せいただいた募金は、237億2,310万287円となりました。このうち、個人によるご寄付が83%、企業・団体・学校からのご寄付が合わせて17%を占めました。募金に加え、会費、寄付金、雑収益ほかすべての経常収益計は、238億2,106万7,787円となりました。

*支出の部

2021年、当協会は、196億8,000万円をユニセフ本部に拠出しました。これは、経常費用計238億2,414万9,380円の82.6%(みなさまからお寄せいただいた募金237億2,310万287円の83.0%*)にあたります。経常費用計の17.4%は、ユニセフ本部との協力協定に基づき、ユニセフ支援の輪を広げるための、国内での募金活動(領収書/寄付控除申請書類の印刷・発送費や振込/決済に係る費用などを含む)、広報・アドボカシー活動、国際協力に携わる人材の育成活動などに充てさせていただきました。そのうちの2.3%が、事務運営費および人件費です。

ユニセフ本部との協定により、日本を含む各国のユニセフ協会は、各国のみなさまからお預かりしたユニセフ募金のうち最大25%の範囲内で、募金活動、広報・アドボカシー活動などの国内事業をおこなっております。これらの活動は、ユニセフ支援の輪を広げ、厳しい状況に置かれている世界の子どもたちへのより大きな支援につながっています。



2021年度 佐賀県ユニセフ協会の事業報告から。(抜粋)

★佐賀県ユニセフ協会を支援して下さる皆様に、昨年度の募金総額と出前講座等の実施回数をご報告いたします。

佐賀県ユニセフの活動は、大きく2つです。主に皆様に直接に支援をしていただく『募金活動』と、ユニセフの理解を広げるための『広報・啓発活動』です。

★募金活動等で支援していただいた昨年1年間の募金総額は、¥4,646,809円でした。その中には、「ユニセフを支援する『母子草』」さんからの使用済み切手・インクカートリッジ、書き損じはがきなどの収益¥271,711円も募金として含まれています。皆様の募金や様々なご支援に感謝申し上げます。

★広報活動については、新型コロナウイルス禍の中でも小・中学校、高等学校、一般の方々から等、幅広く出前授業や講話の要請がありました。「子どもの権利条約」や「持続可能な開発目標SDGs」をテーマに、世界の子どもたちが直面している問題について伝え、自分たちに何ができるかを考えてもらいました。出前授業や講話などを県内外で36回行いました。授業や講話を受けてくださった人の延べ人数は、3054人でした。

また、出前授業やSDGs 絵画展などから学校募金活動協力へと繋がり、募金額も昨年を超えました。

★ 2021年度 佐賀県ユニセフ協会における ユニセフ 募金 (自:2021年1月1日～至:2021年12月31日)

○ 内訳	総計 4,646,809 円
・ 通常募金	741,456円
・ コロナ緊急支援募金	852,330円
・ 東ティモール指定募金	786,502円
・ ハンド・イン・ハンド	2,252,021円
・ 支援ギフト	14,500円



★出前授業・講話を通して世界の子どもたちの現状やユニセフの仕事などを広報

講師派遣 (回)						協定地域組織への訪問 (回)					イベント	合計
校種	小学校	中学校	高校	一般	小計	小学校	中学校	高校	一般	小計	ミニ研修	
回数	12	5	4	2	23回	4	2	3	2	11	2	36回
人数	1983人	254人	504人	83人	2824	5人	11人	19人	5人	40人	150人	3054人

* 募金贈呈式での講話などを含む。大学生は一般に含む。
 * 事務所訪問は、募金贈呈後のミニ講話・調べ学習・活動前の事前学習・情報収集・活動相談等を含む。
 * イベントは、SDGs 絵画展、SAGA国際フェスタなど、様々なイベントを含む。



★3/30 多久町長寿会研修会
「ユニセフと世界の子ども達」

★7/6 大町ひじり学園
「平和学習」



★8/3 小城高等学校2年生
『SDGs 調べ学習』

★11/17 神埼市ドリームパーク
「水から世界を考えよう」



★「ユニセフを支援する会：母子草」による、書き損じはがき・使用済み切手・使用済インクカートリッジ等の協力



使用済み切手の整理ボランティア



使用済みインクカートリッジの回収

年度	募金額
2014年度	272,569円
2015年度	467,507円
2016年度	387,987円
2017年度	477,325円
2018年度	233,331円
2019年度	642,615円
2020年度	396,089円
2021年度	271,711円



ご支援
ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院様、佐賀大学ボランティア実行委員会様、肥前中学校生徒会様、龍谷中学校・高等学校様、佐賀市立鍋島小学校様、神崎市立西郷小学校様、神崎市立千代田中部小学校様、母子草様、コープさが生活協同組合様、平原小学校様、JA佐賀女性組織委員会様、ジョイパークテニスセンター様、

第一生命様、池田内科・皮膚科様、みずがえケアサポート様、栗山医院様、佐賀県税事務所様、佐賀中部保健福祉事務所様、佐賀大学医学部研究棟様、(株)唐津土建工業様、サンテ溝上病院様、佐賀市立図書館様、西与賀公民館様、循誘公民館様、本庄公民館様、NPO法人コーヒータム様、門司歯科様、大塚製薬K・K様、佐賀県立博物館・美術館・佐賀城本丸歴史資料館様、佐賀市役所高齢福祉課介護予防係様、佐賀玉屋様、シマブン様、佐賀新聞社様、佐賀県立ろう学校様、エコプラザ様、佐賀県立佐賀西高等学校様、県民協働課様、ゆめプラット小城市様、西九州ニチレキ様、佐賀県商工会連合会企画情報課女性部様、(有)塩田環境開発様、(株)田中電子工業様、佐賀県立高等学校家庭科クラブ様(牛津高校、鹿島高校、武雄高校、小城高校、唐津商業高校、唐津西高校、唐津東高校、唐津南高校、厳木高校、伊万里実業高校、致遠館高校、佐賀北高校)

(順不同:2022年1月9日～2022年4月28日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力を心から感謝申し上げます。
 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきました。



『木原慶吾 &スピリッツ』 と仲間たち

※ 2022年4月5日 (火) 19:00~20:45

※ 会場：さがライブハウス GEILS

※ ボランティア出演の仲間たち

- ・ 野副一喜さん
- ・ 徳丸英器さん
- ・ 武下詩菜さん

当日の募金額
¥111,144円

ウクライナの子ども達の為に！ 緊急支援チャリティ LIVE!!

佐賀県ユニセフ協会 主催
木原慶吾 &スピリッツ 共催

1日も早い戦争の終結を祈るばかりですが
終わったとしても、ウクライナの人々…とりわけ、子ども達の
苦しみは想像に難くないでしょう。
1人1人の力は微力ですが音楽の力で！！
ウクライナの子ども達への支援になれば幸いです。



木原慶吾 &スピリッツ



徳丸英器



野副一喜



竹下詩菜

日時

2022年4月5日 (火) 18時開場 19時開演

会場

「佐賀ライブハウス GEILS」 佐賀市駅前中央2丁目7-18

※駐車場は有りませんので、近隣の有料駐車場をご利用下さい。

～入場無料～

～ウクライナの子ども達への募金をお願いします～

集まった支援金は全額、ウクライナの子ども達の為に役立てさせていただきます。

※当日はYouTubeでの生配信も行います。「木原慶吾 &スピリッツ」に登録してご覧下さい。

お問合せ

佐賀県ユニセフ協会 電話 0952(28)2077
サウンドスピリッツ 電話 0952(33)3711

unicef for every child



【木原慶吾さん】



【野副一喜さん】



【武下詩菜さん】



【徳丸英器さん】



【テレビ宣伝隊でLIVEのPR】



最後に、4人のアーティストの皆さんで、ウクライナの子ども達に向けて「スタンドバイミー」(そばにいて)を歌っていただきました。



【スタッフ集合写真】

ウクライナの子ども達の為に！ 「木原慶吾 &スピリッツ」と仲間が、 『緊急支援 チャリティLIVE』で支援

【木原慶吾さんからのメッセージ】(語りかけのまま)

◆ようこそ、こんばんは、木原慶吾です。

ロシアがウクライナに侵攻してひと月が過ぎましたが、未だに停戦には至らず、混とんとした状況が続いています。その中でウクライナの人々…、とりわけ、多くの子ども達が戦火の中で苦しんでいます。今夜はそんなウクライナの子ども達のために、たとえ僅かでも…、何かをできればと思います、佐賀県ユニセフ協会の皆様と共に「緊急支援チャリティLIVE」を開催することにしました。

音楽の力なんか無力かもしれませんが、しかし、こんな小さな力がたくさん集まれば…、ウクライナの子ども達に届くかもしれませんね。

今夜は、私たちスピリッツも徳丸英器君、野副一喜君、武下詩菜ちゃんもウクライナの子ども達に向けて、精一杯！歌わせていただきます。短い時間ですが、最後までお付き合いください。

～ STOP THE WAR ～

【開催にあたって】主催:佐賀県ユニセフ協会から

◆この会を開くにあたっては、「音楽の力でウクライナの子ども達を助けたい」と佐賀県ユニセフ協会へボランティア出演を申し出てくださった木原慶吾 &スピリッツの皆さん、徳丸英器さん、野副一喜さん、竹下詩菜さんのおかげで本日を迎えることができました。また、サウンドスピリッツのスタッフの皆さんのサポートにも感謝いたします。

◆皆様も報道でご存じのように、ウクライナでは、紛争が激化してから2カ月が経過し、750万人の子ども達が脅威にさらされています。そのうち、約半数450万人の子ども達が、国外や国内で避難民となっています。子どもたち一人一人が保護、教育、安全、支援を必要としていて、ユニセフでも24時間体制で必要な支援物資を届けています。

◆『緊急支援チャリティーライブ』を通して、佐賀の地から遠く離れたウクライナの人々と共にあることを感じていただければ幸いです。そして、1日も早く紛争が終わることを共に祈りたいと思います。

【当日のLIVEの様子】





○ 2月4日(金) 佐賀大学ボランティア実行委員会ユニセフ募金贈呈 12:30～
 テーマ:服を寄付して、貧しい子どもたちを救いませんか?
 内容:大学構内で回収した未使用の服や靴の益金を寄付
 活動期間:2021年12月15日～2022年1月30日

〈ユニセフ協会事務所〉



○ 2月14日(月) 小城市立三日月小学校オンライン授業「異文化理解」
 ※時間:総合的な学習の時間 3・4校時
 ※参加者:5年生 4クラス 児童131人、先生6人
 ※佐賀県国際交流協会SPIRAと



佐賀県ユニセフ協会と共催

※講師 : モーガン・ボーマンさん(アメリカ合衆国)、
 ブアラパー・ピームマパットさん(タイ)の2名



○ 3月5日(土) 佐賀県ユニセフ協会 理事・評議員役員総会 13:30～15:00

※ 新型コロナウイルス感染予防対策を十分にとりながらの会の開催

- ① 2021年度会計及び事業報告、2022年度会計予算及び事業計画
- ② 2022年度役員について
- ③ 理事・評議員様からの助言及び一言
- ④ 講話 「国際協力の現場で ～タンザニアでの医療支援～」
 JICA九州 佐賀県国際協力推進委員 武田七重 氏
 〈佐賀新聞社 5階会議室〉



○ 3月7日(月) 太良町立多良中学校1年生 13:25～14:10 (総合的な学習の時間)

- ★テーマ:「SDGs」ってなあに?
 ～知る・考える・行動する、自分にできること～
- ★生徒数:中学1年生 40人、先生3人

〈1年生教室〉



○ 3月16日(水) J A佐賀県女性組織協議会様より「愛の募金」贈呈 12:00
 〈J Aさが会館〉



○ 3月16日(水) 佐賀市立鍋島小学校 ユニセフ募金贈呈
 13:45 〈鍋島小学校多目的室〉



○ 3月24日(木) 佐賀県立ろう学校中学部より使用済切手及びインクカートリッジの贈呈
 担当の先生2人来所 13:30 〈佐賀県ユニセフ協会事務所〉



○ 3月20日(日) 『ウクライナ緊急支援』街頭募金活動 イオン佐賀大和店 14:00～15:00

○ 3月27日(日) 『ウクライナ緊急支援』 ゆめタウン佐賀店 14:00～15:00

～ウクライナの子どものために～
 ＊ユニセフスタッフで実施

【P7 詳細参照】
 【 ” ” 】

ウクライナ緊急募金

○ 3月30日(水) サガテレビ「テレビ宣伝隊」17:58～(2分間) 出演
 ＊『ウクライナ緊急支援』チャリティ LIVE』宣伝
 ～ウクライナの子どものために～



○ 4月1日(金) ジョイパークテニスセンター
 ＊『ウクライナ緊急募金』の贈呈 12:30～13:00
 〈佐賀県ユニセフ協会事務所〉

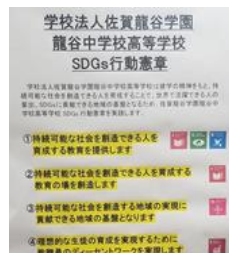


○ 4月 5日 (火) 「ウクライナ緊急支援」チャリティLIVE 19:00~20:45 (18:00 開場)【P5 詳細参照】

会場：さがライブハウス GEILS (佐賀市駅前中央2丁目7-18)
主催：佐賀県ユニセフ協会
共催：サウンドスピリッツ
出演者：木原慶吾&スピリッツの皆さん (イマジン、Fly up the Sky他)
徳丸英器さん (ハイボール、ラブ ウェイブ 他)
野副一喜さん (風の行方、あなたのうた 他)
武下詩菜さん (マイヒーロー 他)



○4月6日 (水) 佐賀龍谷中学校生徒会より ユニセフ募金贈呈
龍谷学園 校長室にて 12:00
《生徒会の皆さんの思い》
“総合的な学習の時間にSDGs学習に取り組み、飢餓や貧困に苦しむ世界の子どもたちへの募金としたい”と決めました。



○ 4月11日 (月) 佐賀新聞善意銀行より ウクライナ人道支援として
「ウクライナ緊急募金」の贈呈 14:30~14:50
〈佐賀新聞社〉



○ 4月11日 (月) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」ギフトカード贈呈式
★日時：2022年4月11日 (月) 11:00~11:30
★会場：イオン佐賀大和店 1階 催事場



ウクライナ緊急募金

* ウクライナ緊急募金へのご支援が3/2~4/22の間に
佐賀県ユニセフ協会へ¥4,209,042円届いています。

* 佐賀新聞社善意銀行様から¥3,270,331円、その他、個人・団体・学校様等から振り込みや持ち込み等¥938,711円のご支援をいただいています。皆様のご支援はいち早く、本部を通して現地への支援物資として送られます。

* 佐賀県ユニセフ協会でも『ウクライナ緊急募金』活動を実施。

- ★期日：3月20日 (日) 14:00~15:00 (イオン佐賀大和店)
- ★期日：3月27日 (日) 14:00~15:00 (ゆめタウン佐賀店)
- ★テーマ：「ウクライナの子供たちを助けたい！」



今後の活動予定

- * 7月17日 (日) 13:30~16:00 「ユニセフ シアターと 講話」
① AARJapan(難民を助ける会) 佐賀事務所長 大室和也氏 講話
『もし、私がなんみんになったら。』
② ユニセフシアター 『ラジオ・コバニ』
〈佐賀市立図書館 2階多目的室〉

* 8月上旬 「佐賀市平和展」ユニセフパネル展示、地雷レプリカ展示
〈佐賀市立図書館ロビーギャラリー〉

* 8月4日 (木) 10:00~12:00 「ピースアクション2022 in さが」
〈アバンセホール〉

「ラジオ・コバニ」
2016年作品





サウンドスピリッツ 代表取締役社長
きはら けいご
木原 慶吾 さん —佐賀市—

○ 音楽の力で、人々に幸せと元気を与えると共に、人に優しく明るい社会をつくるために貢献します。



サウンドスピリッツ 社長 木原慶吾さん

◆木原慶吾さん プロフィール

木原慶吾さんは、佐賀在住のミュージシャンです。26歳で歌手デビューをされた後、東京から帰郷し、「木原慶吾&スピリッツ」を結成するとともに、43年前、佐賀に初めてのライブハウス「GEILS」も立ち上げられた、佐賀の音楽界をけん引するフロンティアでもあられます。

そして、今なお中央との交流も深く、様々なアーティストの皆さんとコンサートや九州ツアーなども行っておられます。

また、ライブハウス「GEILS」の運営や、音楽・イベントプロデュースの傍ら、エフエム佐賀やNBCラジオ佐賀等のパーソナリティとしても活躍されています。その他にも地域発信のイベントのプロデュースや社会貢献活動など幅広く活躍されています。



「木原慶吾&スピリッツ」の皆さん

◆主な活動と社会貢献

現在は、「木原慶吾&スピリッツ」のボーカルとしてライブでのコンサートは勿論、様々な音楽活動やラジオのパーソナリティー、社会貢献活動等も積極的に行われています。

*「佐賀国際ナショナルバルーンフェスタ」イベントステージのプロデュースは30年以上(FLY UP TO THE SKYのテーマソングは有名)。
*ラジオのパーソナリティーとして、下記のレギュラー番組を長年、担当されています。

- ・エフエム佐賀 -Friday night- Talkin' Radio(金曜19:00 - 19:55)
- ・NBCラジオ佐賀・NBC長崎放送

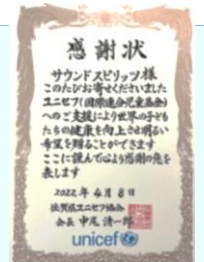
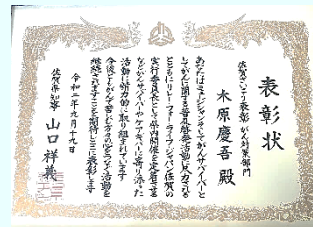
木原慶吾のHOT HITS AGAIN(土曜16:00 - 16:30)

*佐賀市のPRに貢献し、観光振興に寄与したとして、2008年には、佐賀市から「市政功労表彰」を受けられました。

*2015年に佐賀ではじめて世界的ながん啓発イベントリレー・フォー・ライブが開催された際には実行委員長を務め、2020年にはリレー・フォー・ライブを主催するアメリカ対がん協会(American Cancer Society)から、「ヒーローズ・オブ・ホープ」に認定されました。



「リレー・フォー・ライブ・ジャパン・SAGA」の皆さんと木原慶吾さん



◆木原慶吾さんとユニセフとのつながり

unicef | for every child

木原慶吾さんは、佐賀県ユニセフ協会の評議員として、長きにわたり熱心にご支援やご協力をしてくださっています。特に、下記の緊急事態の折には、いち早く支援のメッセージをチャリティーLIVEという形で発信してくださいました。

*2011年3月26日(土)には、2週間後に「東日本大震災緊急支援チャリティーライブ」をGEILSで開催し、多くの方々の応援と義援金を現地に届けることができました。

*2022年4月5日(火)には、ウクライナの子供達のために『緊急支援チャリティーLIVE』をGEILSで、佐賀の若いミュージシャンと共に開催してくださいました。

木原慶吾さんからは、“音楽の力で、子ども達に幸せで明るい未来を！”という願いが伝わり、いつも、佐賀県ユニセフと共にあることを実感させてもらっています。



「ウクライナ緊急支援チャリティーLIVE」(2022.4.5)

◆木原さんから のメッセージ

ロシアがウクライナに侵攻して、3ヶ月が過ぎようとしています。停戦どころか…益々激しくなってきた、混とんとした状況が続いています。今、世界に目を向けるとスリランカやミャンマー、そして近くは台湾・朝鮮半島に加えて北方領土問題等…世界大戦へ繋がる火種が絶えない毎日が続いています。そんな中で…苦しむのは、いつの時代も子ども達です。私達は、そんな子ども達の未来の為に…僅かでも、支援を続けて行かなければ！と思っています。 STOP THE WAR !